

[研究報告]

新たに開発した「洗髪シート」の実用性に関する調査

佐藤 厚子¹⁾、工藤 雄行²⁾、福士 尚葵²⁾、磯本 章子¹⁾

要 旨

本調査の目的は佐藤らが開発した「洗髪シート」の実用性を検討することである。「洗髪シート」は吸水部分とケープ部分に分かれており、シート全体は約900×1,100mm、吸水部分は約900×600mm、ケープ部分は900×500mmである。吸水部分の吸収材は綿状パルプと高分子吸収材を使用し、吸水量は約1.5Lから2.0Lである。ケープ部分はレーヨン不織布、ポリエチレンであり、水分を吸収しない。調査方法は自記式質問紙法で、回答者は看護師及び介護福祉士58名であった。洗髪シートによる洗髪方法はそれまでの方法よりも実施時間とお湯の量が有意に少なくなった（それぞれ $p < 0.05$ ）。実施しやすさについては「良い」が87.9%、準備・後片付けについては「良い」が75.9%であった。また、会話が可能な洗髪対象者のほぼ全員が洗い心地を「良い」と評価した。「洗髪シート」は少ないお湯の量で短時間に洗髪ができるため、ケア負担を軽減する可能性がある。また、洗髪対象者にも快適な洗髪用品であり、臨床現場で実用性があることが示唆された。

キーワード：ベッド上洗髪、洗髪シート、高分子吸収材

I. はじめに

Maslow¹⁾ は基本的な欲求が満たされることの重要性を示した。清潔欲求は基本的欲求の中の一つであると考えられる。Samanthaら²⁾ は体力が低下し、肉体的なダメージがある患者への全身のスキンケアとアセスメントは看護独自の行為として重要であることを報告している。また、室田ら³⁾ は健康な成人女性を対象として、洗髪における安楽の効果を報告し、洗髪が重要な看護技術であることを示した。洗髪を行う器具には洗髪車、ケリパードなどがある。これらは爽快感を得られる便利な用具であるが、準備や後片付けに時間を要する。また、臨床現場の多くで紙おむつを用いて洗髪が行われているが、紙おむつは排泄物処理に用いられる用品であるため、抵抗感があり⁴⁾、見た目も良くない。

佐藤ら⁵⁾ は3年間の試行錯誤を経て「洗髪シート」を開発した。「洗髪シート」は吸水部分とケープ部分に分かれており、シート全体は約900×1,100mm、吸水部分は約900×600mm、ケープ部分は900×500mmである（図1）。吸水部分の吸収材は綿状パルプと高分子吸収材を使用しており、吸水量は約1.5Lから2.0Lである。

ケープ部分はレーヨン不織布、ポリエチレンである。「洗髪シート」の特長は①ベッドや布団に寝たままで洗髪ができる。②準備や後片付けが簡単である。③ケープ部分と吸水部分が一体型なので、お湯の跳ね返りで襟元や胸元を濡らさないことである。「洗髪シート」は臨床での予備調査においては高評価であったが、調査人数が少なく、時間や湯量の経済性などの評価が不十分であった⁵⁾。本調査では調査人数を大幅に増やし、時間及び湯量の経済性、使い勝手などについて検討する。

本調査の目的は「洗髪シート」の実用性を検討することである。



図1. 洗髪シート ケープ首部分にはフェイスタオルが巻いてある 写真提供(株)ユニケア

1) 弘前医療福祉大学 保健学部 看護学科 (〒036-8102 弘前市小比内3-18-1)

2) 弘前医療福祉大学 短期大学部 生活福祉学科 (〒036-8102 弘前市小比内3-18-1)

Ⅱ. 方法

1. 対象者：青森県、秋田県における4箇所の病院及び1箇所の介護老人保健施設に勤務する看護師及び介護福祉士を対象者とした。洗髪の対象者は入院患者及び施設入所者である。「洗髪シート」と従来の方法で洗髪する患者及び入所者は同一にもらった。
2. 調査方法：自記式質問紙法。
3. 調査期間：平成25年12月から平成26年1月。
4. 調査内容
 - 1) 看護師及び介護福祉士（以下洗髪実施者）：①性別②年齢③臨床経験④所属病棟または所属施設
 - 2) 「洗髪シート」の使用評価：①これまでの洗髪方法②これまでの洗髪に要した時間（準備・後片付けを含む）（3段階）。③これまでの洗髪に要したお湯の量（3段階）④「洗髪シート」での洗髪に要した時間（準備・後片付けを含む）（3段階）⑤「洗髪シート」での洗髪に要したお湯の量（3段階）。⑥「洗髪シート」の使いやすさ（3段階）⑦準備・後片付けのしやすさ（3段階）⑧身体的疲労について（3段階）

お湯の量に関してはシャワーボトル1本が約500mLであるので、その量を参考にもらった。
 - 3) 患者及び入所者（以下洗髪対象者）：①性別②年齢③主な疾患④ADL
 - 4) 洗髪対象者の感想（2段階）
5. 「洗髪シート」を用いた洗髪方法手順（図2）
 - 1) 洗髪用のお湯、シャンプー、「洗髪シート」、フェイスタオルを準備する。
 - 2) 洗髪対象者のパジャマの襟元を内側に折り込む。
 - 3) ケープ部をミシン目に沿って切り開く。
 - 4) ケープ部分の後頸部部分に折りたたんだフェイスタオルを巻く（図1）。
 - 5) 洗髪対象者の首に4)を巻く。
 - 6) ケープ部を胸の前で合わせて汚染を防ぐ。
 - 7) 首の下にバスタオルを丸めて挿入し、頸部が軽度後屈するようにする。
 - 8) 通常の洗髪手順に添って洗髪を行う。
 - 9) 中心部分にお湯がたまりやすいので、折り畳むようにすると汚水で不快な思いをしなくても良いし、シート全体が使用できる。
 - 10) すすぎが終了したら、ケープ部を頭部の下に敷いて首に巻いたタオルを外す。
 - 11) 10)の上でタオルを用いて水気をよく取る。
 - 12) 髪をヘアドライヤーで乾かす。
 - 13) 使用後の「洗髪シート」は廃棄物として処理する（基本的に可燃ごみ）。



図2. 洗髪シートを用いた洗髪 (株)ユニケア提供

6. 統計処理

紙おむつ、ケリパード、吸水シートでの洗髪に要した時間及びお湯の量と「洗髪シート」による洗髪に要した時間及びお湯の量の差はWilcoxon signed rank testを用いた。統計解析ソフトはSPSS for windows 18.0Jを用いた。危険率は5%未満を有意差ありとした。

Ⅲ. 倫理的配慮

本調査を開始する前に研究協力病院長・施設長・看護部長に、本調査の目的及び方法、倫理的配慮について記載した文書を示し、署名にて承諾を得た。洗髪実施者に対してはヘルシンキ宣言⁶⁾に基づき、調査の目的及び方法、内容について文書および口頭にて説明した。説明内容は、調査への参加は自由であること、プライバシーおよび匿名性の確保のため、収集したデータは本調査以外の目的には使用しないこと、データの管理・処理については漏洩がないように十分注意し、調査終了後処分すること、更に「洗髪シート」の安全性に関して口頭、及び書面にて十分に説明をした。更に、洗髪対象者には実施前に説明を行っていただくことをお願いした。会話が難しい方のご場合はご家族に了解を得て頂くことをお願いした。また、洗髪実施者及び洗髪対象者から調査内容や結果について問い合わせがあった場合には説明を行うことなどを説明した。本調査は、弘前医療福祉大学研究倫理規程に沿って行われた。

Ⅳ. 結果

アンケート配布数は68枚で回収数59枚（回収率86.7%）、有効回答率は98.3%であり、58名を分析対象者とした。

1. 洗髪実施者

洗髪実施者は、看護師38名（男性1名、女性37名）、介護福祉士20名（男性12名、女性8名）の合計58名であった。病院・介護老人保健施設全体での臨床経験は10.6±11.6年であった（表1）。

2. 洗髪対象者

洗髪対象者の性別は、男性13名、女性が45名であった。年齢は0～20代が5名、30代～60代が6名、70代以上が47名であり、寝たきりの者は34名で58%を占めた。

洗髪対象者のうち、患者は38名で洗髪実施病棟は内科が最も多く23名（60.5%）、次いで療養病棟8名（21%）、小児科3名（7.8%）、整形外科2名（5.2%）、外科1名（2.6%）、混合病棟1名（2.6%）と多岐に渡っていた。入所者は20名であった。主な疾患名（複数回答）は脳血管疾患が27名で最も多かった。がんが9名、肺・呼吸器

疾患9名他骨折、腎不全、糖尿病など様々であった。

会話ができる洗髪対象者は全体で16名（27.6%）であった。

3. これまでの洗髪実施方法

最も多かったのは紙おむつの使用であり58名中27名（46.5%）であった。入浴介助時が10名（17.2%）、ケリパッド使用9名（10.3%）、「洗髪シート」以外の吸水シート（以下吸水シート）使用6名（10.3%）、洗髪なしが2名（3.4%）、他が4名（6.8%）であった。洗髪車使用はなかった。

4. 「洗髪シート」の評価

1) 洗髪に要した時間・お湯の量の評価

準備、後片付けを含めた洗髪実施時間、お湯の量の変化について、紙おむつ、ケリパッド、吸水シート使用時と「洗髪シート」使用時の結果を表2に示した。実施時間が短縮したと答えたのはおむつ、ケリパッドを使用していた場合であり、「洗髪シート」使用後は10分以内で洗髪を終了した者がそれぞれ4名増加した。吸水シート使用では1名のみ10分以内になったと答えた。全体では「洗髪シート」を使用した場合、22名が実施時間10分以内と答え、実施時間が有意に減少した（ $p < 0.05$ ）。

「洗髪シート」使用時にお湯の量が少なくなったのは紙おむつ、ケリパッド使用であり、紙おむつ使用では1L未満になったと答えた者が1名から4名に、ケリパッド使用では0名から2名に増加した。紙おむつ、ケリパッド使用で2L以上使用していた者が減少した。吸水シート使用では2L以上が1名増え、1L未満、1～2L未満は変わらなかった。全体では「洗髪シート」を使用した場合、12名が1L未満になっており有意にお湯の量が減少した（ $p < 0.05$ ）。

2) 「洗髪シート」の使用評価（表3）

「洗髪シート」の実施しやすさについては、紙おむつ

表1. 対象者（洗髪実施者）の属性

	病院	介護老人保健施設
性別		
男性	1	12
女性	37	8
年齢		
20～30代	16	16
40～60代	20	4
無回答	2	0
臨床経験		
3年未満	3	5
3年以上10年未満	10	10
10年以上	25	5

表2. 実施時間とお湯の量の変化

	n	実施時間			お湯の量		
		10分以内	20分以内	30分以内	1L未満	1～2L未満	2L以上
紙おむつ	n=27	10	15	2	6	18	3
洗髪シート	n=27	14	12	1	10	16	1
ケリパッド	n=9	3	1	5	0	5	4
洗髪シート	n=9	7	2	0	2	4	3
吸水シート	n=6	0	3	3	0	6	0
洗髪シート	n=6	1	2	3	0	5	1
全体	n=42	13	19	10	6	29	7
洗髪シート	n=42	22	16	4	12	25	5

Wilcoxon signed rank test

* $p < 0.05$

使用では27名中23名(85.0%)、ケリパッド使用では9名中9名全員(100%)、吸水シート使用では6名中4名(66.7%)、その他は16名中15名(93.7%)が「良い」と答えた。

準備・後片付けについては、紙おむつ使用では18名(66.7%)、ケリパッド使用では9名全員(100%)、その他は11名(40.7%)が「良い」と答えた。吸水シート使用では2名のみが「良い」と答え、「変わらない」と答えた者が半数以上(66.7%)であった。「悪い」と答えた者はいなかった。

肉体的な疲労感については紙おむつ使用では14名(51.8%)が「少なくなった」と答えた。紙おむつ使用で1名が「多くなった」と答えたが、その理由は「清潔面を片手で畳み込む動作を行うのが難しい」との理由であった。また、ケリパッド使用では8名(88.9%)、その他の方法では11名(68.7%)が「少なくなった」と答えた。その他の方法では1名が「多くなった」と答えたが、その理由は洗髪対象者が使用しているベッドの高さが調節できないため、腰に負担が掛かったためであった。吸水シート使用では4名(66.7%)が疲労感「変わらない」と答えた。

3) 洗髪対象者の感想

会話ができる洗髪対象者16名中15名(93.7%)が「洗髪シート」を使用した洗髪について「良い」と答えた。1名はシートの衿部分が破けたため、不安に思ったとの回答であった。

4) 自由回答の記載から(原文のまま)

(1) 「洗髪シート」の吸水性について

①良いと評価した内容：

- 吸水性は高く使用しやすかった。
- 吸湿性よく、シーツ汚染もなく片づけしやすかったです。幅が大きいので安心してケアできました。
- 吸水性はとても良かった。シャンプーの泡を洗い流

す時、吸い取りは悪いが扱いやすい(楽)。

- 1.5L位と少ないお湯の量のできるのでムダがないと思った。
- 自分では結構お湯をかけたつもりだが、シートの下は全然濡れていなくて驚きました。
- 泡がきちんと流せているか不安だったけど、短時間で済んだし、リネンに水がしみることもなくよかった。
- 利用者の方もさっぱりした様子でとても良いと思いました。洗髪シートも想像以上に吸収してびっくりしました。
- 洗髪シートが水分を吸収してくれるのでお湯がこぼれるとか漏れる心配なく安心して入所者様の洗髪に集中できるので良かった。

②問題があると評価した内容：

- オムツより吸水が悪い感じがしました。首元のフィット感はオムツよりよい気がした。
- 頭周囲にせっけん、お湯がたまってしまうのがやや不便に感じました。
- もっと吸水性がほしい(同様3名)。

(2) 準備・後片付け、実施時間

①良いと評価した内容：

- 使い勝手は、片付け、準備共に以前より楽だと思います。
- 入浴ができなかったり、何らかの理由で洗髪できない人もこれなら少ない時間で洗髪できるので助かると思いました。
- 体調不良で入浴できなかった方でも、自室のベッドの上で短時間で洗髪できるので実用していけばいいと思いました。
- 洗髪中の水しぶきがケープ部分の濡れずに便利。使いやすいです。
- 介護者の負担は少なくて済むので良いと思います。

表3. 洗髪シートの評価

	実施しやすさ			準備・後片付け			疲労感		
	良い	悪い	変わらない	良い	悪い	変わらない	少なくなった	多くなった	変わらない
紙おむつ n=27	23	3	1	18	0	9	14	1	12
ケリパッド n=9	9	0	0	9	0	0	8	0	1
吸水シート n=6	4	2	0	2	0	4	2	0	4
その他 n=16	15	0	1	15	0	1	11	1	4
合計 n=58	51	5	2	44	0	14	35	2	21

②問題があると評価した内容：なし

(3) 使いやすさ

①良いと評価した内容

- 髪を乾かす時ケープ部分を利用でき、吸水パットを使用する時より、効率的であった。はじめに首の方にため込み順番に引き出したので1枚でも十分でした。
- 大変広くて使用しやすかった。首周りにまくことができるのでれの心配が少ない。
- 患者の体にしきこむ動作がない為施行者も受ける人もとても楽でした。
- 使用しやすくていいと思います。水漏れもなくて使いやすいです。
- 体調が優れなく入浴ができない入所者にとっては便利な物だと思った。

②問題があると評価した内容

- 他吸水シートとの違いがあまりないように感じた。
- ケープ部分（首周り）がはがす時ミシン部分が弱く破れやすいです（同様10名）。
- シート部分がすぐさきました。さけたことに対し患者様に不安を与えたようです。

V. 考 察

清潔ケアは基本的欲求の一つを満たすものであり、洗髪対象者のQOLを維持する上でも重要なケアである。基本的な清潔ケアができない洗髪対象者にとって、頭髪の清潔維持のために、洗髪は重要な看護行為のひとつである³⁾。また、洗髪にはリラクゼーション効果があり、精神的な満足をもたらすことが分かっている⁷⁾。しかし、洗髪は手軽に行える看護行為ではなく、準備や後片付けを含めると看護者や介護者にとってシート交換の次に身体的な負担がかかる行為であることが報告されている⁸⁾。佐藤ら⁵⁾は看護者や介護者、そして患者や入所者、療養者らにとってより手軽で安楽に行える洗髪用品として「洗髪シート」を開発した。本調査の結果、「洗髪シート」は臨床的な実用性がある可能性が示唆された。また、問題点も指摘された。

1. 「洗髪シート」の簡便性

「洗髪シート」の最大の特長はその簡便性である。今回の調査では実施時間において吸水シート使用では時間が短縮したと答えた者が少なかったが、紙おむつ使用、ケリパード使用を合わせた全体では洗髪時間が有意に短縮していた ($p < 0.05$)。「洗髪シート」は首の部分にタオルを巻き込む部分があり、それを首に当てることで襟を濡らすことができなく洗髪ができるように工夫されている。また、洗髪後はケープ部分を頭部の下に敷きながら髪を

乾かすことが可能であるため、「洗髪シート」一枚とフェイスタオル一枚、ドライヤーがあれば用が足りる。準備・後片付けにおいても全体の75.9%が良いと答え、悪いと答えた者はいなかった。特にケリパード使用では9名全員が準備・後片付けが良いと答えた。これは「洗髪シート」での洗髪方法により準備・後片付けの時間が短縮したためであると考えられる。本調査で最も多く用いられていたのは紙おむつであり、田村ら¹⁰⁾の調査結果と同様であった。本調査では紙おむつ使用においても「洗髪シート」使用時は準備・後片付けが「良い」と評価する者が多かった。これは紙おむつが洗髪をするには幅が狭い可能性があるためと考えられた。中井ら⁴⁾は紙おむつを組み合わせて吸収面を大きくする試みをしている。この点「洗髪シート」はベッドを十分に覆う大きさであり、自由回答でも幅が大きいのて安心できたとの評価を得ている。以上のことから「洗髪シート」は簡便性に優れた洗髪用品であることが示唆された。

2. 「洗髪シート」の吸水性

「洗髪シート」に使用できるお湯の量は2Lまでである。その制限がある中での評価ではあるが洗髪に使用したお湯の量が全体で少なくなっていた ($p < 0.05$)。お湯の量が少なくなっても患者や療養者の評価は良好であった。望月ら¹¹⁾はケリパードの水はけの悪さを指摘している。その点「洗髪シート」は吸水力があり、患者や療養者が快適に洗髪できたのではないと思われる。少ないお湯の量で快適に洗髪ができるとしたら、「洗髪シート」は地球環境にもやさしい用品である可能性がある。しかし自由回答の中には「頭周囲にせっけん、お湯がたまってしまうのが不便」との指摘があった。また、もっと吸水性が欲しいとの回答もあった。使用時のコツとして、2度洗いやすすぎの時には吸水部分を中央に寄せるようにすることを薦めているが、十分に伝達できなかったのかも知れない。同じく自由回答では「はじめに首の方にため込み順番に引き出したので1枚でも十分でした。」とあり、多くの者が「洗髪シート」の吸水性に満足していた。「洗髪シート」は吸水部分が約900×600mmでベッドを覆うほどの大きさであり、髪が長い女性以外には十分に使用できる吸水性を備えていると考えられた。

3. 「洗髪シート」の使いやすさ

中村ら⁹⁾は洗髪車による身体的負担を指摘し、その理由は洗髪時に体位を移動し、頭部を洗髪台に固定するときの不安定さとしている。本調査では洗髪車を使用した者がいなかったが、「洗髪シート」は2度洗いやすすぎの際に吸水部分を中央に寄せるようにしてシート全体を使うため、洗髪対象者の体を殆ど動かさずに洗髪が実施できる。従ってかなり体力が衰え、入浴できない場合にも使用できる。実施しやすさのアンケート結果にお

いては89.6%が良いと答えた。しかし、改良点についても指摘された。実施しやすさにおいて悪い（5名）と回答した理由は「ケープ部分（首周り）をはがす時ミシン部分が弱く破れやすいです。」に代表されるケープの後頸部に当たる部分の弱さである。開発当初からその部分の改良をしているが、まだ不十分である。ケープ部分（首周り）の破れやすさが改良され、使いやすさが増すことでより良い評価が得られると考えている。現在は切り込み部分の改良を進めている。更に首部分をより安定化し、シートが首まわりにフィットする枕を考案中である。

4. 洗髪対象者の感想

会話が可能である洗髪対象者のほぼ全員が「洗髪シート」を使用した洗髪について「良い」と答えた。従ってお湯の量が2L以内であっても十分な爽快感を得ていたと思われる。佐藤ら³⁾は、健康な男性15名、女性10名を対象にして「洗髪シート」を使用した洗髪の爽快感についての評価をしており、「良い」と答えた者は100%であった。本調査で1名はシートの衿部分が破けたため、不安に思ったとの回答であり、ケープ部分（首周り）の破れやすさが改善されれば更に高評価を得られると思われる。

準備や後片付けの時間を短縮し、ケアする側もされる側も負担が少ない洗髪方法を考えて開発したのが「洗髪シート」である。「洗髪シート」は吸水部分とケープ部分からなるため、あたかも美容院で洗髪されているイメージである。本調査では見た目に関する調査は行わなかったが、患者や療養者が日常生活から切り離されることなく、見た目にも感じが良い洗髪が行われる必要がある。特におむつを用いての洗髪方法は見直されるべきであると考えている。

本調査は「洗髪シート」使用前に紙面で使用方法を説明し、洗髪そのものは洗髪実施者にお任せした。従って全員が同じ方法で「洗髪シート」を使用したとは限らない。洗髪の方法を統一できなかった可能性がある。また、本調査において時間についてはだまかにそれぞれ10分、20分、30以内として調査し、正確には測定していない。また、お湯の量に関してはシャワーボトル1本が500mLであるので、それを目安にしてもらったが、研究者が確認したものではない。従って厳密性に欠ける部分がある。以上のことは調査現場が臨床であるための本調査の限界と考える。本調査は臨床での実用性を検討するものであるので主観的な感想であり、その感想が実用性に通じるものである。本調査の結果、「洗髪シート」の簡便さや吸水性、使いやすさについての評価は高く、また、洗髪対象者による評価も高かった。従って「洗髪シート」は臨床での実用性が十分あることが示唆された。

今後は改良を重ね、より良い「洗髪シート」を開発していきたい。

VI. 結 論

「洗髪シート」は簡便さに優れ、吸水性があり使いやすい。また、洗髪対象者の感想も「良い」が93.7%であり、臨床現場での実用性がある。

謝 辞

本調査にご協力を頂いた、大館市立総合病院、弘前市立病院、弘愛会病院、弘前小野病院、介護老人保健施設ヴィラ弘前の皆様に心からお礼を申し上げます。

(受理日 平成26年3月7日)

文 献

1. Maslow, H., A. Theory of Human Motivation, Psychological Review, 50, 370-396, 1943.
2. Samantha, H., Venessa, J. The importance of skin care and assessment, British Journal of Nursing, 14, 1172-1176, 2006.
3. 室田雅子, 北島謙吾, 岩脇陽子, 滝下幸栄, 上馬場和夫, 松本賢哉, 西川広美, 遠藤香子. 看護技術「洗髪」における安楽の効果—生理学的、生化学的、心理学的指標を用いて—京府医大看護紀要, 27, 7-16, 2011.
4. 中井康子, 引地倫代, 橋本由美子, 古田道枝, 岡本聖子. 紙おむつを使用しての洗髪用具の検討, 鳥取臨床科学研究会誌, 2, 325-331, 2009.
5. 佐藤厚子, 石田和雄, 畠山愛子, 幸山靖子, 松本幸枝, 佐々木英忠. 「洗髪シート」爽やかさんによる新たな洗髪方法 在宅ケア論での試みと応用, 看護教育 54, 398-403, 2013.
6. World Medical Association. The International Response to Helsinki: The WMA's Declaration of Helsinki on Ethical Principles for Medical Research Involving Human Subjects, as Adopted by the 52nd WMA General Assembly, Edinburgh, October 2000. [Cited 15 May 2001.] Available from URL: <http://www.wma.net/e/ethicsumit/Helsinki.htm>.
7. 舟木和美, 上館紀子, 山田佳奈, 山本眞千子. 看護援助としての洗髪が生態に及ぼす影響—自律神経活動及び循環動態指標を用いた検討—, 宮城大学看護学部紀要, 11, 21-26, 2008.

8. 弦田公子, 寄本 明. 看護作業のエネルギー代謝に関する研究 (第1報), 日本看護研究学会誌, 6, 38-43, 1983.
9. 中村喜代美, 望月美奈子, 松岡敦夫. 洗髪機器の人間学的考察 (第2報), 日本看護研究学会誌, 9, 82-90, 1986
10. 田村葉子, 今西誠子, 江頭典江, 黒木美智子, 奥津文子, 山田豊子. 新たな洗髪用具開発のための実態調査 (第1報), 京都市立看護短期大学紀要, 37, 59-65, 2013.
11. 望月美奈子, 松岡敦夫. 洗髪機器の人間学的考察, 日本看護研究学会誌, 7, 27-35, 1984.

Research on the practicality of the “shampoo sheet” newly developed

Atsuko Sato¹⁾ Yuko Kudo²⁾ Naoki Fukushi²⁾ and Akiko Isomoto¹⁾

1) Department of Nursing, School of Health sciences, Hirosaki university of Health and welfare
(3-18-1, Sanpinai, Hirosaki 036-8102, Japan)

2) Department of Living and welfare, Hirosaki University of Health and Welfare Junior College
(3-18-1, Sanpinai, Hirosaki 036-8102, Japan)

Abstract

Sheet of hair shampoo is developed for self-care dependent patients. The sheet is made of water absorption sheet and cape portion. Fifty five nurses and care givers answered self-reporting questionnaires on the practicality of the newly developed shampoo sheet on the quantity of the shampoo using the shampoo sheet, time and volume of hot water. Responses of nurses and caregivers are good for easy use (87.9%) and are good for preparation and dispose of seat (75.9%). Fifteen patients (93.7%) feel comfortable using the shampoo seat. It is suggested that the shampoo seat is practically useful for the self-care dependent patients.

Key words: giving a bed shampoo, newly developed shampoo seat, capacity of absorbable paper